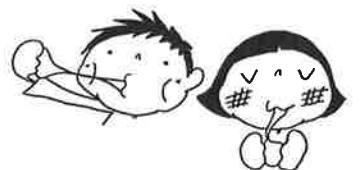




3学期が始まり、おもちつきに観劇、お楽しみの一週間を過ごしました。おもちつきでは「よいしょ！よいしょ！」の掛け声に合わせて、一生懸命おもちをつく年長さん、周りで「がんばれ～！」と応援をする年中さん、年少さんの姿がありました。そして、つきたてのおもちの美味しいこと！「柔らかくておいしい～！」「幸せ～！」と、とろけそうな笑顔でおもちを食べる子どもたち&スタッフでした♪
 たくさんのおうちの方にお手伝い頂き、感謝です！

観劇では、歌あり！楽器あり！笑いあり！の人形劇を見せて頂きました。軽快な音楽にノリノリになっていた子、お話に夢中になり、真剣な表情で劇を見ていた子、お話のおもしろさに大笑いしている子…等々、とても楽しく豊かな時間を過ごしました。

寒い日が続いたと思えば、急に暖かい日があったり…日々の寒暖差に体力が奪われますが、子どもたちは寒さなんて関係なし！思い切り身体を動かして園庭で走り回っています♪お部屋の中では、2学期に出ていた遊びの続きが盛り上がっていたり、この時期ならではの遊びが出ていたり…？！今回は、そんな遊びの様子を少しご紹介したいと思います！（あゆみ）





こんな遊びを楽しんでいます！！



*「スケートやりたいね！」「でもどうやってするの?!」

2学期後半、ある女の子達から「スケートしたいね」と声があがり、靴は牛乳パックで作りたいと言った為、材料を探しましたが、残念ながら牛乳パックはありませんでした。代わりに発砲スチロールを見つけ作ってみることに。スケートリンクは段ボールで作りよく滑るようにろうを塗り、よく滑り楽しめたのですが、発砲スチロールの削れるゴミと音に問題が！！翌日牛乳パックを見つけもう一度作りましたが意外に滑らないことが分かりました。色々試すことの大切さや子どもたちの遊びに対しての探求心は素晴らしいなと思います。またこういう子どもの気持ちを大切にしないでと改めて思いました。

*色々試してみた結果…☆

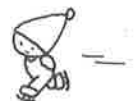
今度は不織布で作ってみることに。布を合わせ縫い取るため、時間はかかりますが、色もピンクと水色で可愛いことと、本物のシューズのようなので、子どもたちも頑張って作ることができました。早速履いて滑ってみると今までの中で一番よく滑り、その楽しそうな様子を見て他の子たちも「つくりたい！」「やってみたい」「入れて！」とどんどんスケート遊びに仲間が増えて、3学期が始まり今もなお遊びが続いています。

*フィギュアスケーターのように滑っていま～す

音楽に合わせて友だちと手を繋いで滑ったり、中にはテレビでフィギュアスケートを見たようで、「こうやって滑ってたよ」と真似して滑る子も。時には転んで顔を床にぶついたり、唇を噛んで痛い思いをすることもあります…。また、観客席を作り、チケットを他のクラスの子や先生に配り、見に来てもらったり、お客さんが来ないとぬいぐるみをいすに座らせお客さんに見立てたり、子どもたちの遊びは本当におもしろいなど、また創造力豊かであるなと思います。

いっしょにあそぼうの日はおうちの人にも見てもらって、一緒に滑ってもらいたいとの声があがっています。レンタルシューズを作らなくちゃね！との声もあがっていますが、進んではいません（笑）おうちでお子さんと作って当日お持ちいただいても構いません！かなりよく滑るので転んで怪我をしないように気をつけてください。不織布は少し生地が薄いため、足下が冷えるので厚めの靴下を履いてきた方がいいかもしれません。是非ぶどうぐみのスケートリンクに来て、ショーを見たり、スケートを体験して楽しんでもらえたらと思います。

(AKI)



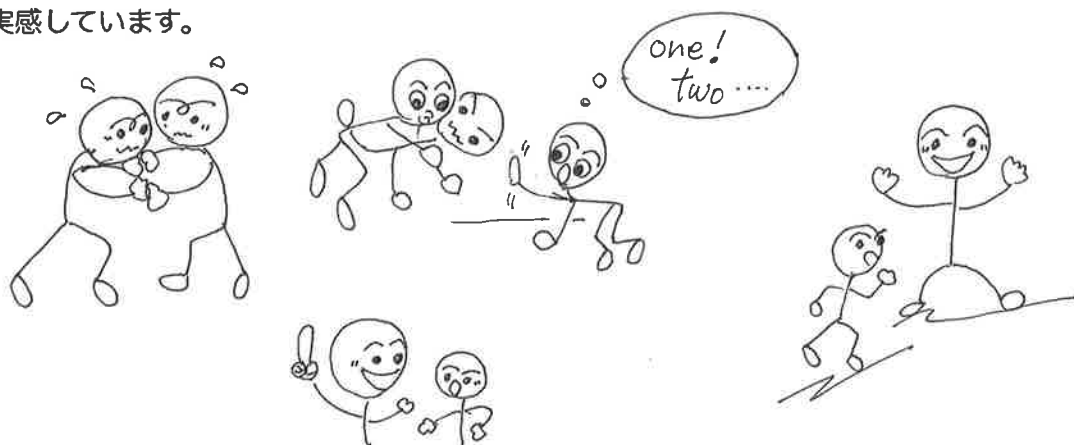
仲間入り！

食事中に子ども達が午後の遊びを思案しています。その会話から子ども達が園での1日をどう過ごすか、プログラミングしているのが伺えます。

ある日のこと、一人の年少児がプロレスをしたいと言いだし、それを聞きつけた年少児たちが「ぼくも…」「おれも…」と一緒に盛り上がっていました。準備もバッチリです。いつも年長児たちがしているようにカラーマットをウッドデッキに敷きつめ、仕上げには、これまた年長児たちが決めたルールが書かれている紙を扉に貼っていました。日頃どんな風に遊んでいるのかをこんなにもよく見ているのかとビックリしました。

その後プロレスが始まるとまるで仔犬のじゃれあいのような格闘が続いていました。そこへ年中児が仲間入りすると不思議なことにプロレスっぽくなったのです。体の動かし方や間合いからそう見えていたのだと思います。その様子や「服、脱ぐから待って！」とプロレスラーになりきる年中少児をニコニコ笑って見ていたのは、年長児です。また「待ってて、すぐ仲間に入るから」と詳しくルールを教えながら、一緒にプロレスごっこをしてくれました。勿論、相手が年中少児なので、多少の手加減は忘れません。その辺りは今までの経験がものを言っています。


身近なところに見本になる存在がいるというのは、一人ひとりの成長に大きく影響すると実感しています。



よくよく周りを見渡すと、年中少児が年長児の仲間入りをしている様子が、以前よりもたくさん見られます。園庭では、ドッジボールやド口警、クラスでは折り紙や〇〇ごっこと称してのなりきり遊び・・・遊びながらルールを教えてもらったり、コツを掴むまで付き合ってくれたり、できない時に助けてもらったり、その遊びを“おもしろい”と感じられるようになったり・・・その傍らには年長児の存在があります。

昨日のことでした。ドッジボールをしていた子ども達が「〇〇すっごいよ」「うん、スッゲー！」と笑って話していました。〇〇というのは年少児のことです。年少児が年長児を当てたことを一緒に喜んでいたので。その言葉を聞いて、それはそれは嬉しそうな年少児、その後も張り切ってコートの中を走っていました。

こうした関わりを通して育つ姿を見つけると、何だか心がほっこりします。皆さんにも是非、見つけていただきたいです。

(まさえ )